

# 奄美の風だより

VOL.29(夏号:7) 2007. 7. 10 ANC:New Letter

発行・編集:奄美自然体験活動推進協議会



クロイワニイニイ



リュウキュウアカショウビン

夏が訪れました。暑い日が続き、セミがうるさいほど鳴いています。今の時期はリュウキュウアブラゼミ、ヒグラシ、クマゼミ、クロイワツクツク、クロイワニイニイの声をよく聞くことができます。

セミの鳴き声は余計に暑さを感じさせるのは何故でしょうか……。野鳥のコールバック調査を行っている職員が「セミがうるさすぎて調査にならない」と嘆いていました。

セミの鳴き声は夏を代表する風物詩ですが、ここ奄美ではリュウキュウアカショウビンも忘れてはならない代表的な夏の風物詩ではないでしょうか。

朝、スズメではなくキョロロ……。というアカショウビンの声を聞きながら顔を洗うなんて奄美はやっぱりすばらしいとつくづく思います。民家の近くでアカショウビンがふつうに見られるのは奄美と沖縄だけですからね。

アカショウビンが到来し約2ヶ月ほどになりますが、アカショウビンの死体がここ奄美野生生物保護センターに持ち運ばれることが多くなりました。死因の多くは窓ガラスにぶつかったことが原因です。窓ガラスに木々の風景などが反射し写ってしまい、そこに木々があると勘違いをして突っ込んでしまうようです。人間でもたまに、ドアが開いていると思いこみ、ガラスが見えずにそのまま突っ込んでしまう……。ということがありますよね。



同センターでは、猛禽の形で切りとった紙を、窓ガラスに貼っています。貼ることによって「ここに窓ガラスがありますよ!」と鳥たちに知らせるためです。

← センターの窓ガラス

もし、皆さんの職場やお家の窓ガラスによく鳥がぶつかるということがあれば、鳥の衝突防止のため、明るい色のカーテンを閉めたり、鳥の形の紙を貼ったりしてみてください（鳥の形でなくてもOKです）。

また、「バードセーバー」といって衝突を防ぐためのステッカーなどを指すグッズが売っています。こういうグッズだと、「家の・会社の見映えが悪くなる」ということにはならないと思いますので、是非使ってみてはいかがでしょうか。

私たち人間が少し気にして工夫をすれば、救われる命がたくさんあります。ちょっとだけ鳥のことを考えてみませんか？

※衝突事故はアカショウビンだけではなく、色々な鳥たちに起こりうる事故です。時期も夏だけではなく、年中発生します。

## 協議会活動報告

### ～環境月間 特別企画～

#### 企画展：「知ろう！守ろう！奄美のビッキヤ」

期 間：6月2日(土)～6月30日(土)

場 所：奄美野生生物保護センター企画展示室

#### ワイルドライフセミナー：「知ろう！守ろう！奄美のビッキヤ」

話題提供1：「奄美にすむカエルたち」 永井弓子(奄美野生生物保護センター)

話題提供2：「カエルへの脅威 ツボカビ症」澤志泰正(環境省那覇自然環境事務所)

と き：6月2日(土) 午後4時～

と ころ：奄美野生生物保護センター企画展示室

6月は環境月間です。環境月間の特別企画として、企画展とワイルドライフセミナーが上記のとおり開催されました。

豊かな自然と固有の生態系をもつ奄美群島には、9種類のカエルが生息しています。

奄美群島のカエル類の最新の生息状況やユニークな生態、迫りくる脅威について紹介し、カエルをきっかけに地域の皆様に自然環境保護について考えていただくことを目的に、企画展とワイルドセミナーを開催し



ました。

6月2日のワイルドライフセミナーではプロジェクターを使い映像・写真でわかりやすくカエルを紹介しました。

参加者からは「オットンガエルの産卵場所の環境はどういうところなのか?」「オタマジャクシは上からみて識別できるのか?」などたくさんの質問があり、参加者の関心の高さがうかがえました。35名のかたがワイルドライフセミナーに参加してくれました

企画展では、奄美のカエルたちをいろいろな角度から紹介するとともに、カエルツボカビ症などカエルに迫る脅威について、パネル展示で解説しました。218名の方が企画展に訪れてくれました。

## 新聞記事

**ツボカビ侵入防止を**

**澤志さん、永井さんが「カエル講演」**

奄美野生生物保護センター

大和の奄美野生生物保護センターなど二団体共催のワイルドライフセミナー「知ろうを守るろ」奄美のヒラキヤが二日開成り、那覇自然環境事務所の澤志正さんが「カエルへの脅威・ツボカビ症、同センターでアケテプレジヤを務める永井弓子さんが「奄美にすむカエルたち」と題してそれぞれ講演した。今のところ奄美での感染確認はないが、澤志さんは「ベアト」で飼っているカエルを絶対に野外へ放さないで、日ごろから靴などの消毒に留意して侵入防止を努め、注意してカエルを観察、おかしな点があれば動物検疫所に通報してほしい」と指摘した。

**ビッキヤ企画展も始まる**

子供を含め二十四人が聴講。澤志さんは「世界一の両生類五千七百四十三種のうち、一九八〇年以降に絶滅したとされるものが百二十種もある。外国では二十四万七千頭のカエルが全滅した事例もあり、ツボカビ

野放散防止対策は沖縄県を中心に行動しており、(財)鹿野調査による現状把握。専門家、ベアトシヨウアやホームセンター、淡水魚販売店など二百六十四軒、学校六百十八校、養蚕普及普及活動子供向けにチラシ二十八万枚、両生類創業者向けに五千部複製して配布。ラジオCMやバス車内アナウンスで啓発的な

を並べてお、奄美でも学校へのチラシ配布等を計画している。永井さんは撮影した奄美の九種類のカエルの写真を使って生体分りやすく説明した。

企画展も同日から始まり、奄美のカエルの生態状況等を説明したパネルを展示している。三十日

「日本では野外への拡散は確認されていない。しかし、三月六日現在で飼育下のカエル十九匹の感染が確認され、うち五匹では二種類が既に陽性と確認された」と述べ、緊急対策の必要性を強調した。

「経は過去幾度の伝染症」

永井弓子さん

澤志正さん

奄美のカエル、ツボカビ症についての講演があったワイルドライフセミナー

# わきゃあまみ第6弾 「奄美のカエル図鑑」の紹介

平成18年度協議会事業としてわきゃあまみ⑥「奄美のカエル図鑑」を小学生全学年を対象に作成しました。

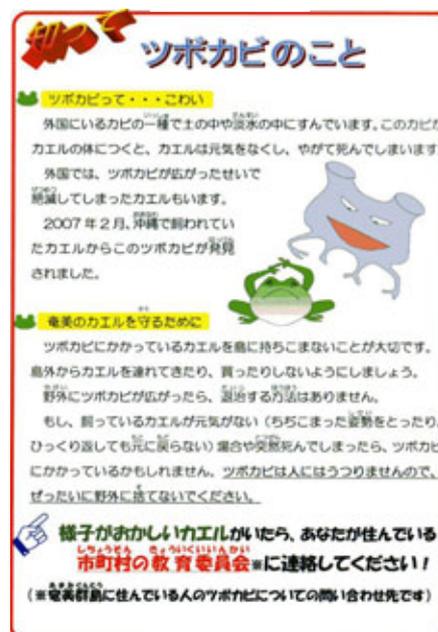
奄美大島は、単一の地域としては日本でもっとも多い9種類のカエルが生息しています。そのカエルたちのユニークな生態や、現在世界規模で深刻な問題となっているカエルツボカビ症について知ってもらおうと、作成しました。

小学校へ直接配布。又は各市町村の教育委員会を通して小学校への配布をお願いしましたので、野外観察などに使っていただけたらと思います。

## 表紙



## 裏表紙



中身の  
一部

# 奄美野生生物保護センターと共催の夏の行事のお知らせ

## ☆ネイチャークラフト教室

### 「海からのおくりものアート」

#### 1. 趣 旨

環境省奄美野生生物保護センターでは、7・8月の「自然に親しむ運動」期間に、いろいろな自然ふれあい行事を実施しています。今回は、「海からのおくりものアート」と題して、子どもたちの夏休みの自由課題にも最適なネイチャークラフト教室を開催します。

海辺には、流れ着いた貝がら・サンゴ・木の実・流木などの自然の素材や、ガラスの破片が波でけずられてできたビーチグラスなどが落ちています。そんな海からのおくりものを集めて、立体感のある芸術作品を作ってみましょう。

海からのおくりものを配置して作品を仕上げていく過程で、それがどこから奄美にやってきたか、どのようにして来たか、もともとはどんなものだったかを考え、あらためて奄美と外の世界との海を通じたつながりについて感じていただければと思います。

なお、作品はお持ち帰りいただきますが、その前に写真に撮って、奄美野生生物保護センターで展示させていただきます。

#### 2. 実施日時・場所

- ・と き 平成19年7月28日（土） 13:00～17:00
- ・ところ 環境省奄美野生生物保護センター（大和村思勝）

同センターに集合した後、大和村国直の海辺にアート素材となる海からのおくりものを探しに行きます。作品の制作はセンター内で行います。

## ☆自然観察会 その①

### 「身近な生きものの不思議を探そう！」

- ・と き：平成19年8月8日（水）
- ・ところ：センター周辺

身近な生きものの観察をとおして、生きものの関係を理解しよう！

## ☆自然観察会 その②

### 「磯でうみあしび」

- ・と き：平成19年8月12日（日） 10:00～12:00
- ・ところ：海辺

タイドプールで、観察、記録し発表をしましょう！

※8/8、8/12の自然観察会の詳細は奄美野生生物保護センターにお問い合わせ下さい。

## ★奄美野生生物保護センタースタッフによる野生の生きもの情報★

### ■オットンガエルの紹介■

皆さんは、奄美に在来のカエルが9種類も生息していることをご存じでしょうか？それぞれの種が、平地から山地までの多様な環境を利用しながらうまくすみ分けています。7月現在、9種のうち数種類のカエルが繁殖の真っ直中です。今回は、繁殖期のピークを迎えているオットンガエルについて紹介します。

#### オットンガエルはどんなカエル？

オットンガエルは奄美大島と加計呂麻島に分布している奄美の固有種です。山地に生息しており、奄美にすんでいるカエルの中でも大型な種です。成体の体長は10~14 cmにもなり、どっしりとした体型です。そのボリュームを見ると、「昔は食べられていた」というのも納得がいきます。現在では鹿児島県の天然記念物に指定されており、捕獲は禁止されています。



オットンガエル

このカエルには変わった特徴があります。カエルは通常、前足の指は4本なのですが、オットンガエルには5本目の指が存在します。そしてその指はトゲのように鋭く、普段は隠れています。その指が何のためにあるのか、まだよくわかっていません。

個体数は多くないようで、分布も限られていることから、環境省のレッドデータブック（絶滅のおそれのある野生生物について記載したデータブック）では絶滅危惧種ⅠB類（近い将来に野生絶滅の危険性が高い）にランクづけられています。

#### 繁殖期のオットンガエル

一般にカエルは繁殖期以外の間は大半が個々バラバラに生活しています。しかし、繁殖期になると、繁殖地にまずオスが集まってきます。そしてオスの鳴き声に呼び寄せられメスがやってきた後、抱接（メスの背中にオスがしがみつく）し、産卵（オスはメスが生み出した卵に精子をかけます）に至ります。

オットンガエルも例外ではなく、4~10月くらいまでが繁殖期にあたり、その間、オスは溪流などの水場の近くで「グォッホン！（クークークー※）」という人間の咳払いに似た、独特の大きな声で鳴いています。昼間でも鳴いていることがあり、さらに、行動が活発になる夜間はこの声があちらこちらから聞こえてくるのです。

※本鳴き「グォッホン！」の後に「クークークー」と小さい声で鳴くことがあります。近くで聞かないとわからない場合もあります。

オットンガエルは、水量の多くない溪流部や、そのそばの平らな地面などに、浅く平たい穴（直径20~30 cm）を掘って産卵巣を作ります。産卵巣には、溪流から染み出した水や流れ込んだ水が溜まります。抱接したペアは、その中で産卵するのです。卵は産卵巣の水面一面にぎっしり浮いている状態になります。



産卵巣の中の卵塊



オタマジャクシ (右)

やがて孵ったオタマジャクシは、その産卵巣から近くの水の流れの少ない溪流や止水域へと流れて分散していきます。オタマジャクシはそのまま冬を越し、翌年カエルに変態するものが多いようです。



### ■両生類に迫る危機■

次に、話題になっているカエルツボカビ症のことも含め、奄美にすんでいる両生類に対してどんな危機があるのか、挙げてみました。それらをどうすれば防ぐことができるのか、みなさんも一緒に考えてみてください。

#### ■ 開発等による生息地の消失

森林伐採、林道の建設などによって生息地が減ったり、伐採されたところから乾燥化が進み、繁殖できる場所が消失することがあります。その結果、個体数の減少や生息分布域の分断や縮小が起こります。

◎開発が必要な場合は、生物の生息状況を事前に把握した上で行い、自然環境に配慮した工法を取り入れるなどの考慮が必要です。

#### ■ 外来生物（ジャワマンゲース、ノイヌ、ノネコ、両生類など）

人間が野外に放したペットなどが、在来種を捕食しています。

また、奄美以外の国内や外国産の両生類が野外に放された場合、生息地や食物の競合がおき、在来種が負けてしまうことが懸念されます。

◎飼育しているペットや猟犬などを野外に放さない（捨てない）ことが重要です。

（もともとその土地にいなかった生物を野外に放すと、そこにもともといた生物に悪影響を与えます。）

#### ■ 交通事故（ロードキル）

繁殖期には繁殖地に移動するために林道などに出てくることが多くなります。

さらに舗装化が進むことにより車のスピードが出しやすくなり、轢かれる個体が

増えることとなります。

◎夜間、林道を走行するときは野生生物が道路上に出てくること頭に入れて、ゆっくり運転しましょう。(カエルたちは、特に雨で路面が濡れているときに多く路上に出てきます。)

## ■ 違法な捕獲

ペット用として売買するために、野外で捕獲したものを持ち去る人間がいます。これらの実態を把握することは困難で、気が付かないうちに生き物が少なくなっている可能性も考えられます。

◎違法な捕獲はやめましょう。あやしい人を見かけたら警察に連絡をしましょう。

## ■ カエルツボカビ症

ツボカビに感染すると起こる病気です。感染した両生類の致死率はとても高く、海外ではツボカビのために絶滅した両生類がいるほどです。ツボカビの伝播力は強く、水を介して伝播し、宿主がいなくてもしばらくの間生き続けることができるやっかいなカビなのです。

昨年末、日本で飼育されていたカエルからツボカビ症が確認されました。それ以降も国内で次々とツボカビ陽性個体が確認されています。奄美に侵入する可能性も十分にあります。ツボカビが野外に拡散したら根絶は不可能です。万が一侵入すれば、両生類への打撃だけではなく奄美の貴重な生態系に影響を及ぼすでしょう。

◎ツボカビの侵入を防ぐために・・・飼育している両生類（に限りませんが）は責任を持って飼いましょう。一度飼育した個体は、野外に放してはいけません。また、両生類を新たに飼育することは、できるだけ避けましょう。

ツボカビに関する連絡・問い合わせ先は、奄美群島ではお住まいの市町村教育委員会、奄美野生生物保護センター（0997-55-8620）、東京大学医科学研究所奄美病害動物研究施設（0997-72-0373）になっています。



▲ 環境省が配布しているツボカビ啓発パンフレット

一度失った生態系を元に戻すことは簡単ではありません。

奄美の貴重な自然を守っていくためには、みんなの協力が必要なのです。

(アクティブレンジャー 永井 弓子)



# 奄美大島生き物情報(寄せられた情報の一部)

## 場所が非公開のもの

イボイモリ  
日時:07. 5. 25 11:30  
状況:晴れた日のちょっと湿った林道の上に出てきていた。

アマミノクロウサギ  
日時:07. 4. 24 0:05  
状況:真夜中の林道脇で発見。小雨が降る中、動かずにじっとしていました。幼獣と思われる

オカモノアラガイ  
日時:07. 5. 20 14:00  
発見場所:奄美市名瀬  
状況:水がほとんどない側溝の泥の上で発見

ツバメドリ  
日時:07. 5. 3 16:00  
発見場所:笠利町万屋  
状況:農耕地上で発見

ハグロトンボ  
日時:07. 5. 31 13:05  
発見場所:宇検村  
状況:沢に近い林道上を飛んでいた

オーストンオオアカゲラ  
日時:07. 5. 11 11:12  
発見場所:大和村  
状況:倒木にとまって、エサを探しているようだった

サクララン  
日時:07. 5. 31 15:30  
発見場所:宇検村  
状況:林道脇の斜面にぶらさがっていた

ミスガイ  
日時:07. 6. 3 16:00  
発見場所:笠利町土浜  
状況:タイトブルで発見

アカマタ  
日時:07. 5. 6 21:45  
発見場所:住用町  
状況:アスファルト上に出ていた

ルリカケス(ヒナ)  
日時:07. 4. 5 11:00  
発見場所:住用町  
状況:森の中を歩いているとバタバタという羽音がし、巣立ったばかりのヒナを発見

ケラマツツジ  
日時:07. 4. 19 10:50  
発見場所:住用町  
状況:住用川に注ぎ込む支流のそばで発見

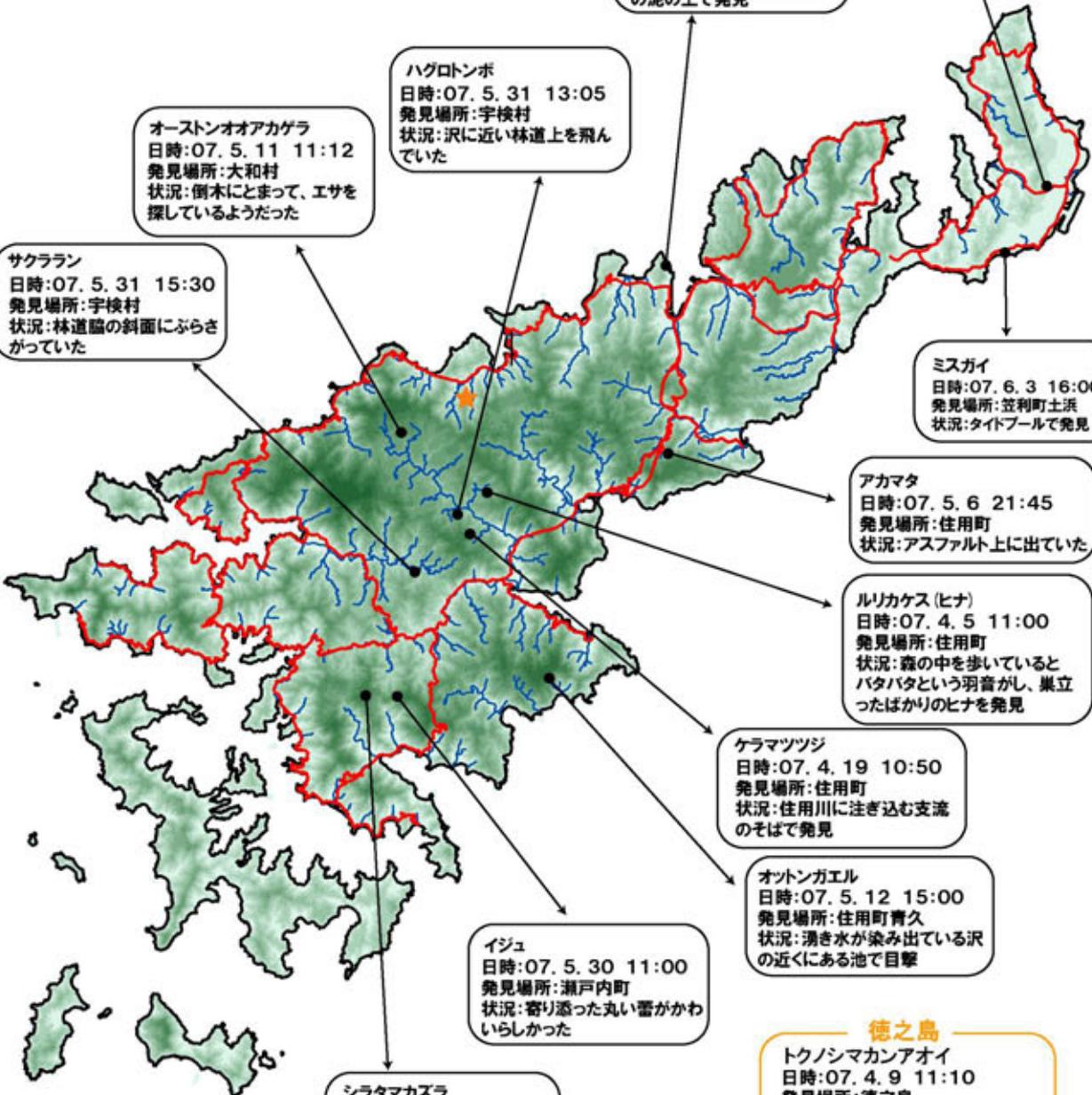
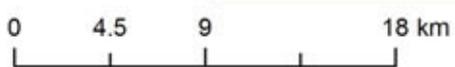
オットンガエル  
日時:07. 5. 12 15:00  
発見場所:住用町青久  
状況:湧き水が染み出ている沢の近くにある池で目撃

イジュ  
日時:07. 5. 30 11:00  
発見場所:瀬戸内町  
状況:寄り添った丸い雷がかわいらしかった

シラタマカズラ  
日時:07. 5. 30 12:00  
発見場所:瀬戸内町  
状況:花が咲き始めていた

**徳之島**  
トクノシマカンアオイ  
日時:07. 4. 9 11:10  
発見場所:徳之島  
状況:井之川岳山頂への登山道の比較的標高が高い場所で発見  
トクノシマエビネ  
日時:07. 4. 9 12:00  
発見場所:徳之島  
状況:井之川岳の登山道のところどころに生えているのを発見

★センター周辺の情報  
アマサギ  
日時:07. 4. 26 17:55  
状況:センター前の池に9羽程でやってきました。6月中旬まで毎日のように訪れていました。



# 夏に見られる野生生物

## ツバメチドリ【チドリ目・ツバメチドリ科 全長26.5cm 夏鳥】

干潟や草地、畑などの開けた場所に現れ、ツバメを大きくしたような形をしている。翼が細長く、尾が二股に分かれている。夏羽では翼の下面の一部が赤栗色で、黒くちばしの基部が赤く、のどがクリーム色で周りを黒い線で囲まれているため、正面から見ると黒い輪に見える。奄美では、海岸付近の草地の一部で繁殖していると考えられ、夏に幼鳥の小群が見られる。

鳴き声：キリリ、キリリ など

生息時期：3月～9月



## ヤンバルアワフキ【アワフキ科】

山地の日当たりのよい谷筋などに生える落葉高木。花は汚白色で径3～4mm。果実は球形で径4～5mm、赤熟した後黒変する。春先の新葉は赤褐色でよく目立つ。

分布：本州（山口県）・九州（対馬）、奄美大島以南



## ～番外編～

## ハブ【クサリヘビ科】

マングースバスターズが仕掛けているワナになんと、ハブがかかりました！どうやら、ネズミがワナにかかったところをハブが食べに来たようなのです。

しかし、たらふく食べたらお腹がぼっこり……。お腹が引っかかってワナから出れなくなってしまったようです。



ハブが活発に動く時期となりました。皆さん畑や山に行く際は十分に気をつけて下さい。また、もしもの時に備えてポイズンリムーバーなどを持ち歩くことをお勧めします。

特徴：体はスマートで細長い、頭部は長三角形で大きく目立つ。目と鼻の間には感覚器であるピット器官がある。

参考文献：琉球弧 野山の花（南方新社 監修/大野照好 写真と文/片野田 逸朗 発行日/1999.6.6）  
図鑑 奄美の野鳥（奄美野鳥の会 発行日/1997.3）  
山溪ハンディ図鑑9 日本のカエル+サンショウウオ類（山と溪谷社 写真/松橋 利光解説/  
奥山 風太郎 発行日/2002.4.1）

### ～奄美野生生物保護センター事務補佐員さんの紹介～

今年6月から、細川フミエさんの後任として奄美野生生物保護センターの事務補佐員になりました勝間田さとみ（かつまた さとみ）です。生まれも育ちも千葉県で、去年まで長野県軽井沢で、自然活動に関する仕事をしていました。

奄美に来てまだ2ヶ月程度で分からないことがたくさんありますが、少しでも早く仕事を覚えて、奄美の自然について勉強していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

## 平成 19年度協議会総会の報告

平成 19年度の協議会総会が5月24日（木）に大島支庁で開催されました。

- 議題
1. 平成18年度・活動経過報告
  2. 平成18年度・収支決算の承認について
  3. 監査報告
  4. 平成19年度・活動計画（案）の承認について
  5. 平成19年度・収支予算（案）の承認について
  6. その他

※平成18年度・収支決算、平成19年度・活動計画、平成19年度・収支予算が承認されました。

#### 編集後記

季節が変わるとこんなにも海の色は変化するのものと、驚いています。夏の海の色は一段と美しいですね。海水浴の時期にもなり暑い日が続くと、服のままでも海に飛び込みたい！と毎日のように思う今日この頃です。\_\_

**編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局**

- 〒894-3192  
鹿児島県大島郡大和村大和浜100  
大和村役場 総務企画課  
TEL：0997-57-2111
- (連絡・書類等送付先)  
〒894-3104  
鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551  
奄美野生生物保護センター内  
TEL：0997-55-8620  
FAX：0997-55-8621  
Email：amami\_rabbit@nifty.com